

佳作

アンネの日記を読んで

茨城県 日立市立日高小学校二年 藤垣 佳代

「こわいな、こんな生活はいやだな。」

アンネの日記をよんで、一ばんはじめにこう思いました。アンネはかくれ家にかくれて見つからないようにビクビクおびえてくらしていました。かくれ家にかくれていたとき、どんどんいろんなユダヤ人がつれていかれてこわかったです。わたしは、まい日学校にもいけるしお出かけもできます。あたり前だと思ってたけど、アンネたちは、ユダヤ人だからつれていかれました。もしわたしも日本人だからといってつれていかれて大へんなしごとをさせられたり、シャワーをあびさせてあげるよとだまされて、どくガスでころされたりしたらと思うと、おかしいと思います。「人間ってすばらしい。いのちってすばらしい。それなのになぜ人はにくしみあうの？ころしあうの？」とアンネの日記に書いてありました。

わたしも人間といのちは大切だと思います。どんな国にすんでいても、みんな大切だと思います。

ミープさんは、かくれ家にいるみんなをばれないようにまもってくれたり、たべものをもってきてくれたり、ラジオをかってきてくれたりしました。やさしい心をもっています。ミープさんはオランダ人だけど、ユダヤ人のみんなをまもっていてこわくなかったのかなと思いました。

今、ウクライナにはアンネのようにあんしんしてくらせない子どもたちがいると思います。はやくみんな学校で友だちとあそんだり、べんきょうしたり、家ぞくと一しょにおいしいごはんをたくさんたべられるようになってほしいです。日本には「せんそうはしない」というきまりがあるそうです。わたしが大人になってもへいわがつづいてほしいです。